

2024年12月期第3四半期 決算説明会

小林製薬株式会社

執行役員 CFOユニット ユニット長
中川 由美

2024.11.8

紅麹関連製品に関して

この度は、当社紅麹関連製品に関してお客様やお取引先様をはじめ、当社に関係する様々な皆様に多大なるご迷惑、ご心配をお掛けしており、改めて深くお詫び申し上げます。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様に心からお悔やみ申し上げます。また、現在も入院中、治療中の方の一刻も早いご回復をお祈り申し上げます。

日付	内容
8月19日	当社の紅麴コレステヘルプ等の摂取により健康被害にあわれたお客様への補償を開始。
9月17日	「再発防止策の策定に関するお知らせ」を発表。
9月18日	厚生労働省が原因究明に関して発表。プベルル酸が腎障害を引き起こし、化合物Y、Zは腎障害を引き起こさないことを確認。
10月8日	「報酬の一部辞退に関するお知らせ」を発表。
10月10日	大阪市が本事案を「食中毒であると判断することが妥当」と発表。

| 紅麹コレステヘルプ等に関する事例数

4/29ページ

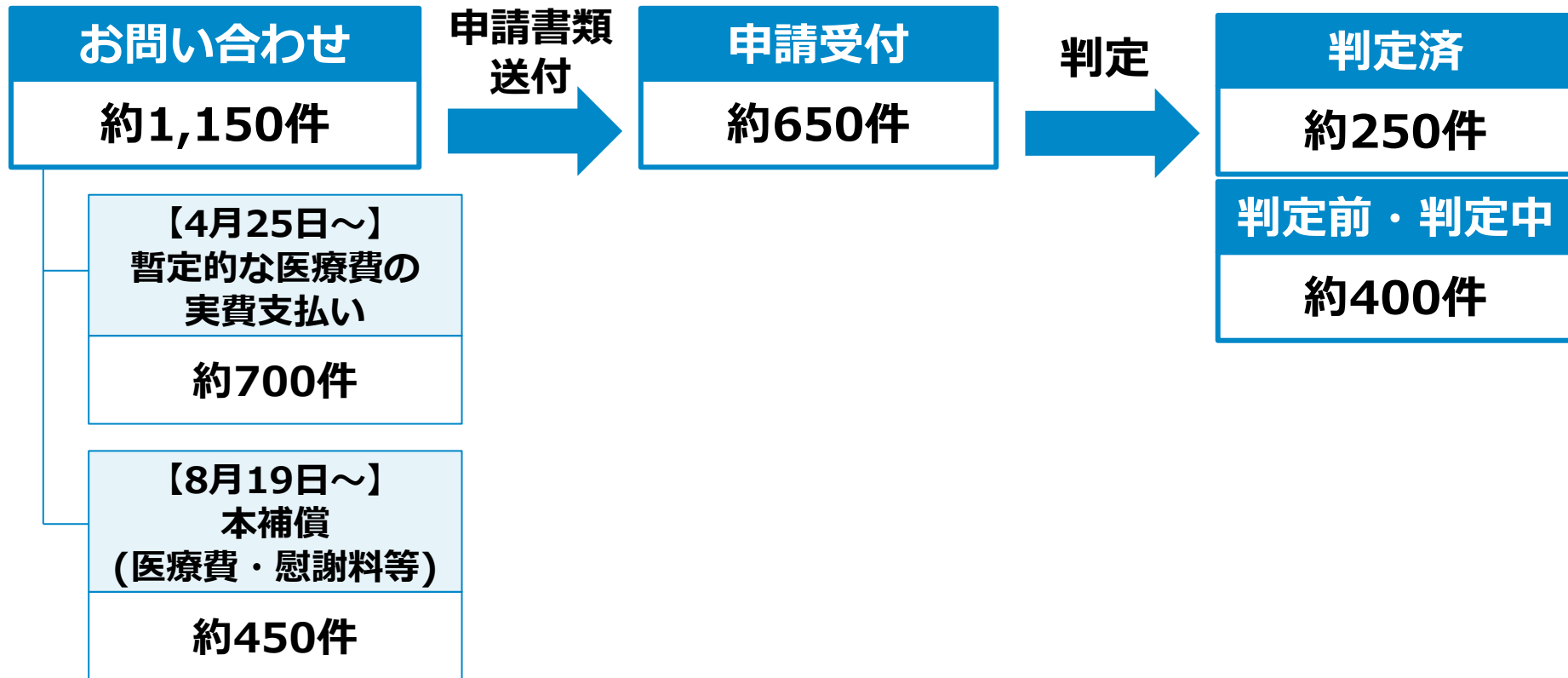
2024年11月3日時点

死亡が関連する お問合わせ数 ※1	摂取の実態なし ※2		272
	摂取実態確認中		0
	詳細調査対象 ※3		125
	(内訳)	調査継続 ※4	10
		調査完了	43
		その他 ※5	72
(合計)		397	
入院 ※6			523 (329)
通院 検査入院を含む ※6			2,069 (1,555)
受診者計 入院+通院 ※6			2,592 (1,884)
健康相談の件数			約11,200件
全ての受付数 健康相談以外のお問い合わせを含む			約150,000件

- ※1 件数の表示方法の変更前に公表していた5事例を含む
- ※2 紅麹コレステヘルプ等を摂取していなかったことが確認された件数
- ※3 確認の手続きの対象となる件数
- ※4 現在詳細調査中の件数
- ※5 詳細調査の同意が取得できない等のため調査が困難な件数
- ※6 カッコ内は腎関連疾患のみの件数

(「入院」「通院」「受診者計」「健康相談の件数」「全ての受付数」は、のべ数)

■ 補償対象の判定状況 ※件数はのべ数



1. 品質安全に関する意識改革と体制強化

項目	内容・進捗状況
(1) 意識改革：「品質・安全ファースト」	・品質・安全に関する全役職員向けの教育・研修体制を構築。 →執行役員向けの食品衛生教育を実施。 全役職員向けの教育コンテンツを取りまとめ中。 2025年1月より教育プログラムをスタート。
(2) 体制強化①：品質保証体制	
ア 責任部署の明確化	・信頼性保証本部を事業部から独立した責任部署として位置付ける。 →2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。
イ 品質管理体制の改善	・品質管理部門及び監査部門の役割と責任の明確化。 →2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。
ウ 専門部署の新設	・開発及び製造の関連法規を専門的に扱う部署の新設。 →2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。

1. 品質安全に関する意識改革と体制強化

項目	内容・進捗状況
(3) 体制強化②：マネジメント体制	
ア 工場のガバナンス体制の充実	・各工場の定期監査（第三者監査を含む）の実施。 →次ページで詳細説明。 ・各工場の課題抽出や課題精査を担う「工場ものづくり推進部（仮称）」の新設。 →2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。
イ 関連ルールの整備	・製品カテゴリー毎に法令・各種ガイドライン、ルールを整備。 →まずは食品カテゴリーで設計品質や製品品質基準について議論中。 2025年1月よりスタートする新組織体制にて他カテゴリーへ展開。 ・品質保証方針の社内浸透。 →全役職員が朝礼時に毎週唱和を開始。 ・ものづくり部門が同じ目線で品質強化活動を推進するため、品質保証方針の具体的な行動準則として「ものづくり品質行動方針」を制定。 →2025年1月よりスタートする新組織体制の中で、実行性高い方針を制定する。

8月8日の2024年12月期第2四半期決算説明会にてご報告した「口から摂取する全製品（サプリメント、医薬品等）」の自主点検に加えて、「肌に触れる製品」に対しても実施。

＜自主点検内容＞

- ・ 異物、菌などの混入、カビ毒など未知成分の産生リスクが無いか
- ・ 工場の衛生基準は適切に設定され、運用ができているか
（GMP基準、及び準ずる運用、衛生管理教育、等）
- ・ 手順が定められ、製造記録を残せる運用ができているか
（手順書、記録書等の整備状況）
- ・ 手順書の内容通り製造ができているか



＜結果＞

肌に触れる製品のラインに対しても重篤なリスクは発見されなかった。

各工場の監査状況（第三者機関による監査）

9/29ページ

実施時期 : 2024年10月
対象工場 : 国内4工場（富山小林、アロエ製薬、ブラックス、仙台小林）
対象ライン : 口に入る・肌に触れる製品生産ライン（医薬品除く）
チェック項目 : 衛生管理（防虫防鼠含む）を中心に、リスクアセスメント、教育、施設設備の管理（保全）等

桐灰小林製薬
ISO9001/ISO13485
(カイロ)



愛媛小林製薬
(衛生用品等)



富山小林製薬
GMP、健康食品GMP
(医薬品、サプリメント、雑貨品等)



大阪工場：閉鎖
(紅麹培養工程)



小林製薬ブラックス
(糸ようじ、容器等)



梅丹本舗：製造停止（点検中）
(紅麹培養工程、サプリメント)



仙台小林製薬
GMP、QMS
(医薬品、医療機器、雑貨品等)



アロエ製薬
GMP
(医薬品等)



＜監査結果＞

ただちに重篤な品質不具合の発生につながるような指摘は無かった。
しかし、自主点検では分からない視点、特に衛生管理に関連する専門的かつ客観的な指摘を複数受けた。（詳細は次ページ）

＜今後の予定＞

自主点検や第三者監査の結果を踏まえ、今後さらに高い品質管理レベルを目指し、改善を進めていく。

＜監査での主な指摘事項＞

①リスクアセスメント

自社視点で品質リスクを踏まえた工程管理設計を行い、それぞれの工程で一定の管理方法が定められているが、より専門性・客観性の高い要員体制で計画的な製造工程及び製造環境を網羅した品質リスクアセスメントの実施に強化すべき点がある。

②教育訓練

作業現場の各所で破損や劣化した器具や部品に対するルールが定められており、頻度を決めてチェックされているが、一部では破損した状態のまま使用されている状態があった。作業現場のリスクがどこに存在するのか、決められたルールを守らないとどうなるのかを周知することで衛生管理に対する意識を促すなど、作業教育に強化すべき点がある。

③施設・設備の管理

日常的あるいは定期的な設備点検・保全ルールはあるものの、製品特性に合わせた専門的視点と劣化等を踏まえた計画的な視点での設備改善・維持管理活動に工場によってバラつきがあることに、強化すべき点がある。

④有害生物の駆除

外部業者の活用も含めて防虫防鼠のモニタリング、発生事象に対する応急対応は出来ているが、他方で、発生原因の網羅的な分析をもとにした恒久対応（駆逐）を進めることに、強化すべき点がある。

1. 品質安全に関する意識改革と体制強化

項目	内容・進捗状況
(3) 体制強化②：マネジメント体制	
ウ 業務フローの見直し	
ア) 開発部門と工場の協働	・開発部門と工場の連携強化を図るため、「量産化見直し会議（仮称）」を実施。 →2024年11月より、製造本部内でテスト運用開始。 その後、2025年1月から本格運用を目指す。
イ) 新規技術領域における製造管理・維持管理等の向上	・新規技術領域への進出や事業拡大時におけるPMIのあり方を再考。 →技術戦略プロジェクトで既存技術の棚卸しを開始。 自社の強み・弱みを明確にした上でPMI時のチェック項目を見直す。
ウ) 製品検査の強化	・意図しない成分の混入を確認する手順や検査方法を検討・開発 →2025年1月以降、製品特性に応じた新規手順・検査の導入に向けて検討中。
エ 人事評価制度の刷新	・品質・安全に貢献する活動を評価の対象とする評価制度を導入。 →人事・研究・製造と、評価すべき品質活動と評価方針を策定し、 2025年1月以降の新・評価体制導入を目指す。

2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(1) 創業家依存経営からの脱却	・新社長が旗手となり「品質・安全ファースト」を旨とする経営のかじ取りを進める。 →創業家出身の代表取締役2名が既に辞任。 →特別顧問の履行状況等を取締役会へ適時に報告している。
(2) 機関設計の再検証	・機関設計の妥当性や改善点の検証。 →2025年3月定時株主総会に向けて検討中。 ・最適な取締役会構成及びスキルマトリックスのあり方の深耕。 →2025年3月定時株主総会に向けて検討中。

2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(3) 取締役会による監督強化	
ア 社外取締役による監督の強化	・取締役会議長を社外取締役が担うことを前提とした定款変更。 →2025年3月定時株主総会に向けて検討中。 ・議長の下、コーポレートガバナンス強化に資するアジェンダを設定。 →取締役会アジェンダを決定すべく検討中。 ・社外取締役と監査役との連携の仕組み強化。 →社外役員への情報提供のあり方を決定すべく検討中。
イ 取締役会と執行サイドによる定例会議	・取締役会と執行サイドの定例会議を実施。 →定例会議の概要（メンバー・時期等）を決定すべく検討中。 ・取締役会や監査役会へのリスク情報提供の仕組みの再整備。 →新設する「グループ協議会」にて、取締役会に上げるべきリスク情報をピックアップする運用をスタートすべく検討中。
ウ 監査役への適時の情報共有	・「Bad News First」の徹底。 →従前に比べてリスク案件は幅広く迅速に取締役会へ報告しており、さらなる意識啓発に向けた追加施策を決定すべく検討中。

2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(4) GOMの廃止	・多様な視点で各部門の課題について議論する「グループ協議会」を、最終意思決定機関として「経営執行会議」を、それぞれ新設する。 →2024年10月より経営執行メンバー5名（社長・CFO等）でテスト運用開始。「グループ協議会」と合わせて、早期の本格運用開始を目指す。
(5) 危機管理体制の整備	
ア 社長を責任者とする対応体制	・有事の際に「品質・安全緊急会議（仮称）」を開催し、迅速に対応を判断できる体制にする。 →既存の回収検討委員会の概要（開催要件・メンバー等）を見直し中。
イ 有事を想定したリスクマネジメント体制	・リスクマネジメント体制の強化。 →全社的リスクを改めて洗い出し、重要リスクテーマを再選定中。 その後、重要リスクテーマの有事対応シナリオ（コンティンジェンシープラン）を作成。
ウ 有事の際の社内情報共有体制	・有事の際に品質・安全を最優先とする情報共有システムの構築。 →早期のシステム構築に向け、検討中。

2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(6) リスク・コンプライアンス体制の強化	
ア ガバナンス推進会議の再整理	・内部統制やコンプライアンスを監督する「ガバナンス推進会議」に、これまで上がってこなかった品質関連テーマも取り上げ、コーポレート部門の視点から牽制を行う。 →2024年末までにガバナンス推進会議の目的や運用方法（メンバー・開催頻度等）を決定し、2025年1月から新会議体制で運用開始。
イ 誠実さを行動準則とした組織運営	・「インテグリティ経営」を推進するための専門部署の設置。 →2025年1月より専門部署を立ち上げる。 具体的なアクションプランは新組織にて今後検討していく。

2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(7) 対外的なコミュニケーション・情報発信の改善	・研究開発部門や品質保証部門において、より専門性を高められる組織編成を行う。 →2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。
(8) リソースを踏まえた取捨選択	・品質、安全性を重視した適切な人員確保を行う。 →各部門で行っている業務の整理と削減を行うべく精査中。

2024年12月期第3四半期 決算業績報告

国内事業

（カッコ内の数字は対前期）

トータルでは▲71億（▲7.9%）の減収。

- ・ 訪日客の増加に伴ってインバウンド需要の増加（+24億）
- ・ 「消臭元ZERO」や「ヒプキュア」などの新製品が貢献（+33億）
- ・ 紅麹関連製品の回収や広告中止の影響で、既存品が減収（▲97億）
- ・ 暖冬によるカイロ返品増（▲12億）
- ・ 通販の定期購入解約による減収（▲19億）



国際事業

（カッコ内の数字は対前期 ※為替影響含む）

トータルでは円安による為替換算影響もあり+25億（+9.2%）の増収。

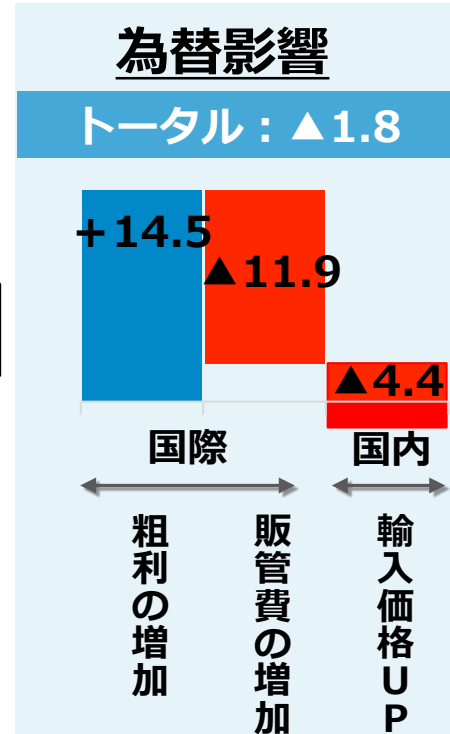
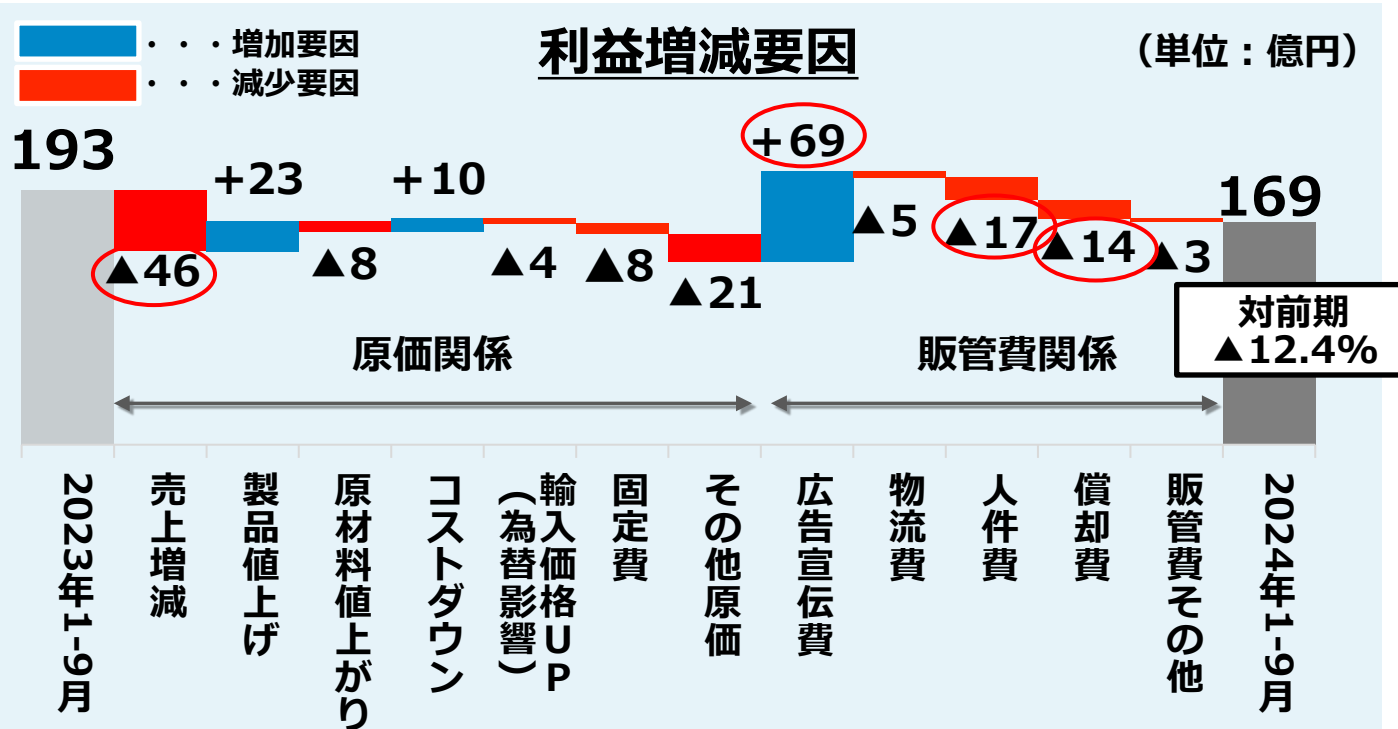
- ・ 米国 : 昨年M&AしたFocus社が貢献し増収（+34億）
- ・ 中国大陸 : 7月までの広告停止の影響をカバーしきれず減収（▲15億）
- ・ 香港地域 : 中国大陸からのインバウンド需要の反動で微減収（▲2億）
- ・ 東南アジア : 昨年の熱さまシート特需の反動がありつつも増収（+3億）
- ・ その他地域 : 各国でカイロや熱さまシートが好調（+5億）

紅麴関連製品回収等に伴う特別損失22億円(3Q累計101億円)を計上。

(単位：億円)	2023年		2024年					
	7-9月	1-9月	7-9月			1-9月		
	金額	金額	金額	対前期	利益率	金額	対前期	利益率
売上高	454	1,191	413	▲9.2%	-	1,144	▲3.9%	-
売上総利益	256	681	219	▲14.3%	53.1%	626	▲7.9%	54.8%
営業利益	89	193	75	▲16.4%	18.2%	169	▲12.4%	14.8%
経常利益	96	208	74	▲22.5%	18.1%	179	▲14.0%	15.7%
当期純利益	76	154	39	▲48.8%	9.5%	53	▲65.5%	4.7%
EBITDA ※	104	236	95	▲8.6%	23.1%	228	▲3.3%	20.0%

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

広告中止で利益を押し上げた一方、売上減や人件費増の影響に加え、23年10月にM&AしたFocus社の償却費増も影響し、減益で着地。



ヘルスケアは苦戦するも、日用品は伸長。カイロ・通販は減収

(単位：億円)		2023年		2024年			
		7-9月	1-9月	7-9月		1-9月	
		金額	金額	金額	対前期	金額	対前期
売上高	ヘルスケア	165	474	132	▲19.7%	431	▲9.2%
	日用品	136	348	138	+1.2%	352	+1.2%
	カイロ	7	25	6	▲16.5%	13	▲46.7%
	通販	18	56	9	▲47.8%	36	▲34.9%
	合計	328	905	287	▲12.5%	834	▲7.9%
営業利益計		66	160	62	▲7.2%	159	▲0.1%
(率)		20.4%	17.7%	21.6%	-	19.2%	-

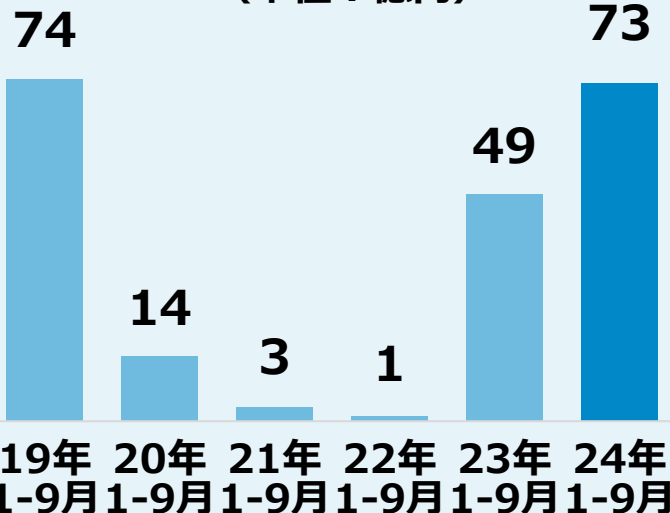
※ 9月13日に糸ようじ・やわらか歯間ブラシ等の自主回収を実施。
営業利益に約3億円のマイナス影響。

紅麹の影響を一部受けつつも、訪日客の増加に伴い、コロナ前並みで推移。

コロナ禍で発売した新製品でインバウンドの兆候が見られるものも。

インバウンド売上の推移

（単位：億円）



新たな兆候のある新製品



外国語POP展開



インバウンド売上ランキング

順位	2019年 1-9月	2024年 1-9月
1	命の母	ナイトール
2	サカムケア	命の母
3	アンメルツ	栄養補助食品
4	ブレスケア	のどぬ〜る
5	アイボン	メガネクリーナー

中国大陸・香港地域の減収、Focus社の償却費等が影響し、
トータルは増収減益（為替影響：売上高+23億円、営業利益+2.6億円）

(単位：億円)		2023年		2024年					
		7-9月	1-9月	7-9月			1-9月		
		金額	金額	金額	対前期	対前期 (為替除く)	金額	対前期	対前期 (為替除く)
売上高	米 国	57	103	68	+20.0%	+12.8%	137	+32.7%	+21.2%
	中国大陸	29	69	20	▲30.8%	▲34.1%	54	▲21.8%	▲26.6%
	香港地域	8	22	6	▲20.5%	▲23.0%	20	▲8.2%	▲16.4%
	東南アジア	21	59	18	▲15.0%	▲18.3%	62	+5.1%	▲1.3%
	そ の 他	9	24	11	+22.9%	+16.4%	30	+23.1%	+11.7%
	国 際 計	125	280	125	▲0.2%	▲5.5%	306	+9.2%	+0.7%
営業利益計		20	29	12	▲40.3%	▲48.5%	7	▲74.3%	▲83.2%
(率)		16.7%	10.6%	10.0%	—	—	2.5%	—	—

カイロが暖冬で苦戦するも、医薬品・その他は23年10月にM&AしたFocus社の連結影響や為替の影響もあり増収。

（単位：億円）

売上高 ※括弧内の%は為替除き

カイロ

54.9 62.6 61.4

対前期
▲2%
(▲11%)

2022年 2023年 2024年
1-9月 1-9月 1-9月



医薬品

29.9 34.0 50.1

対前期
+47%
(+34%)

2022年 2023年 2024年
1-9月 1-9月 1-9月



その他

対前期
+271%
(+239%)

26.2

7.1 7.0 26.2
2022年 2023年 2024年
1-9月 1-9月 1-9月



7月までの広告停止の影響をカバーしきれず全体的に苦戦。
カイロは昨年暖冬による需要減の反動、配荷量販の拡大により増収。
熱さまシートは昨年の特需による反動もあり減収。

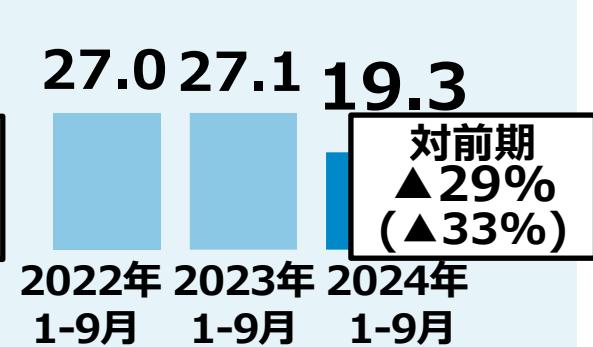
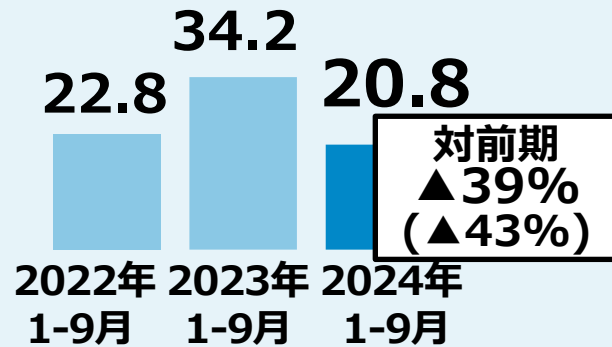
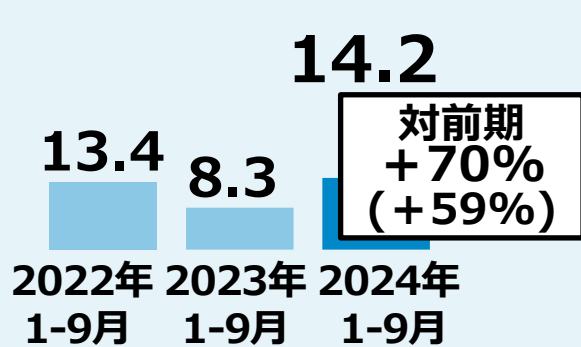
（単位：億円）

売上高 ※括弧内の%は為替除き

カイロ

熱さまシート

その他



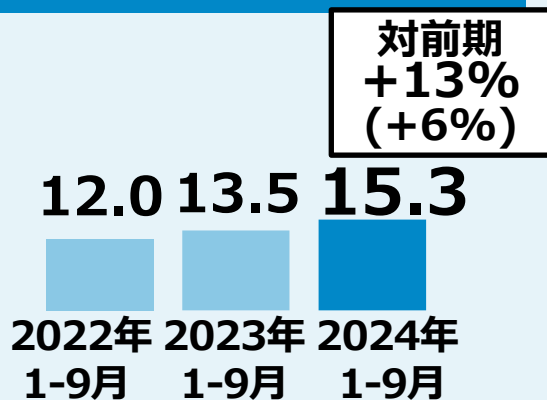
医薬品はアンメルツが好調。

熱さまシートは昨年の各種感染症の特需の反動もありつつ、トータルでは増収。台湾地域の暖冬によりカイロは減収。

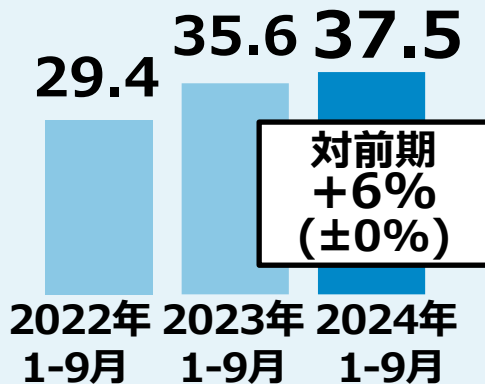
（単位：億円）

売上高 ※括弧内の%は為替除き

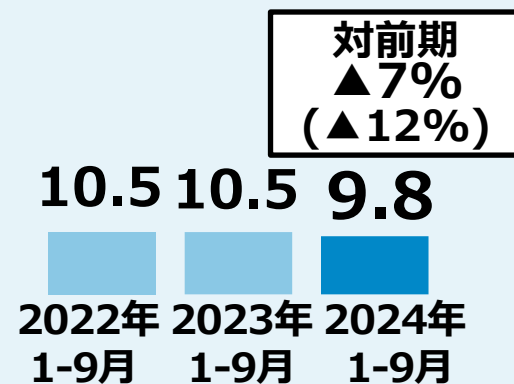
医薬品



熱さまシート



その他



紅麴関連製品回収等に伴う特別損失の追加計上に伴い、当期純利益を修正

(単位：億円)	2023年12月期 実績	2024年12月期予想 (2024/8/8公表)		2024年12月期予想 (2024/11/8公表)		
	金額	金額	対前期	金額	対前期	利益率
売上高	1,734	1,690	▲2.6%	1,690	▲2.6%	-
営業利益	257	240	▲6.9%	240	▲6.9%	14.2%
経常利益	273	255	▲6.7%	255	▲6.7%	15.1%
当期純利益	203	121	▲40.5%	107	▲47.4%	6.3%
EBITDA ※1	317	319	+0.4%	319	+0.4%	18.9%
EPS	268.16円	162.77円	▲29.3%	143.94円	▲46.3%	-
ROE	10.1%	5.7%	-	5.2%	-	-
国内事業売上高	1,304	1,205	▲7.7%	1,205	▲7.7%	-
国際事業売上高 ※2	422	480	+13.5%	480	+13.5%	-

※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額 ※2 為替レート：150円/米ドル、21.0円/中国元

**まずは補償と再発防止策をしっかりと進め、品質と安全を第一に、
小さな信頼をひとつずつ積み重ねてまいります。**

そのうえで、今後長期の目線で企業価値を向上させるべく、品質並びに人的資本を第一とする投資判断のあり方、事業ポートフォリオの再編の検討、キャッシュアロケーション・株主還元の方向性の見直し等、今後の発表に向け検討を進めてまいります。



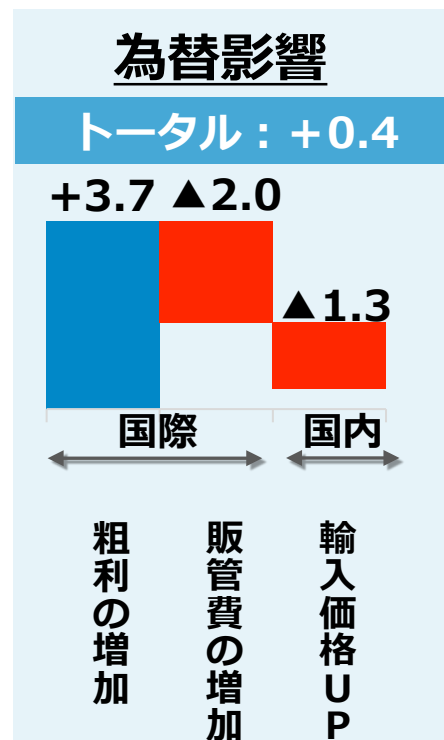
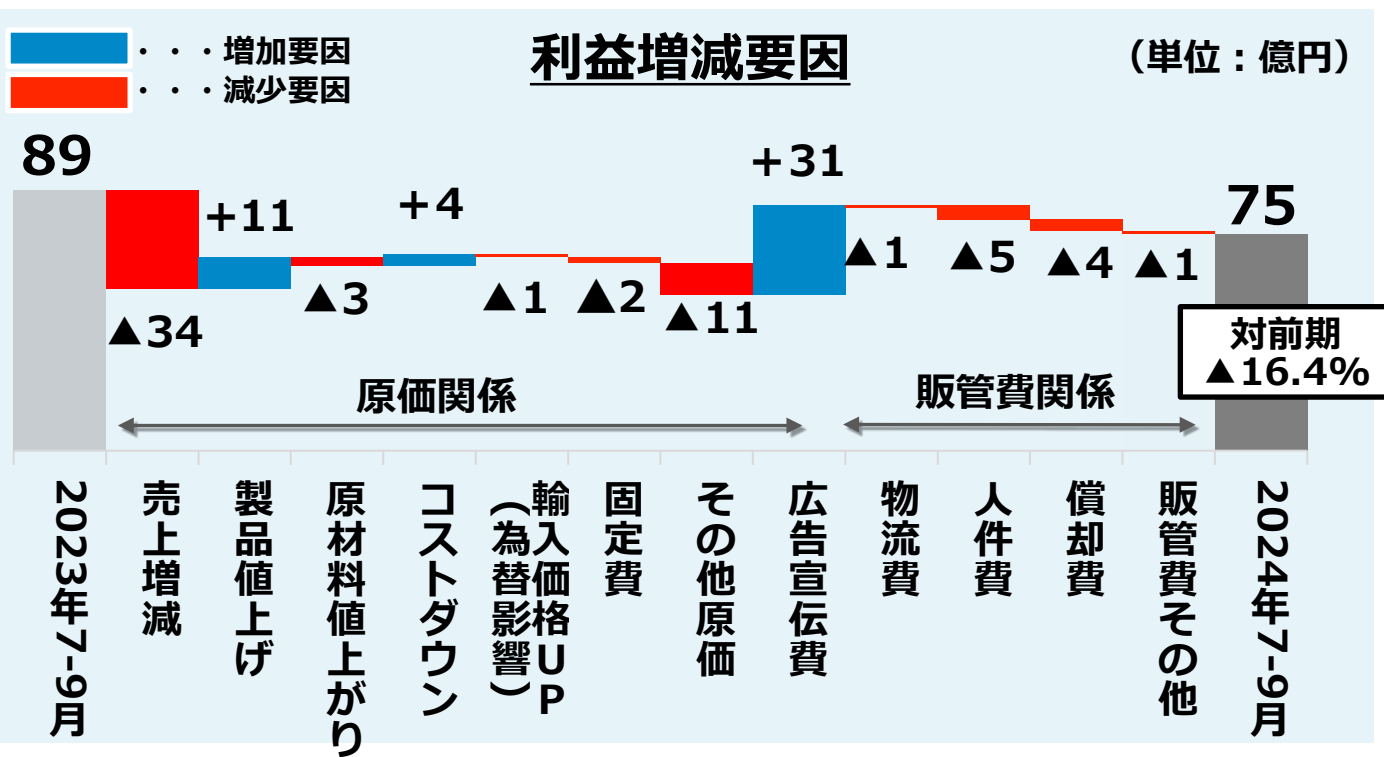
＜注意事項＞

この資料に記載されている当社の現在の業績、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

従って、実際の業績は様々な要因の変化により記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

参考情報

第3四半期（7-9月）実績

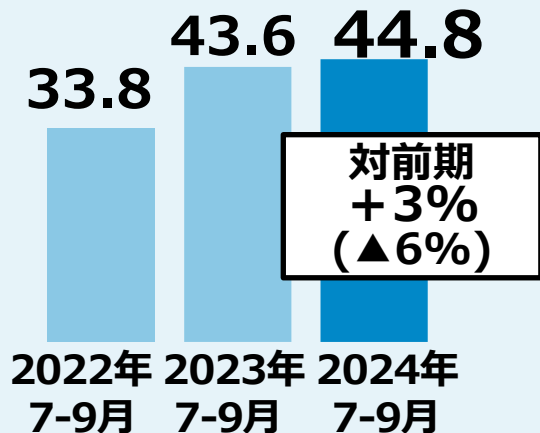


第3四半期（7-9月）実績

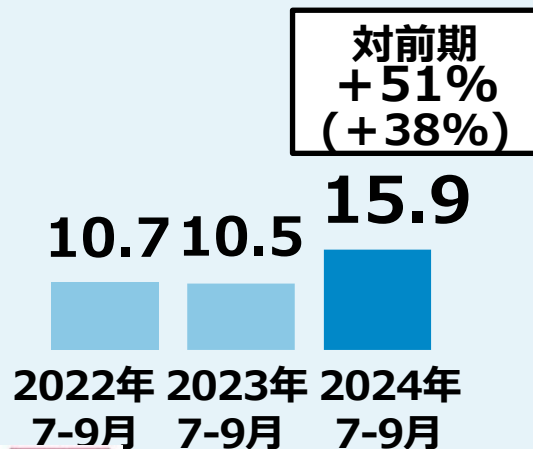
（単位：億円）

売上高 ※括弧内の%は為替除き

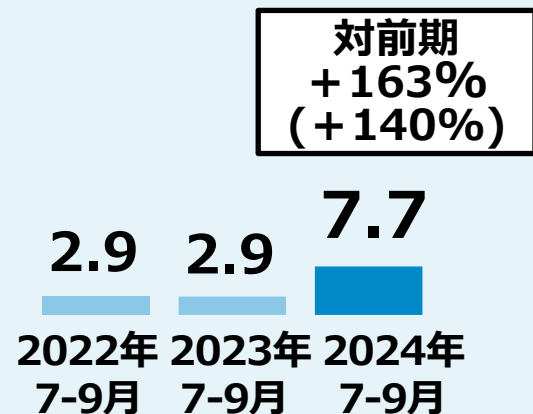
カイロ



医薬品



その他

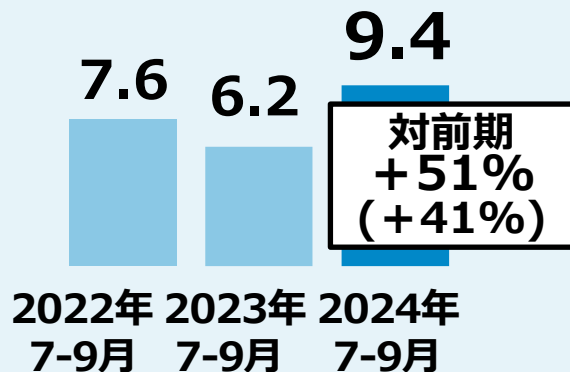


第3四半期（7-9月）実績

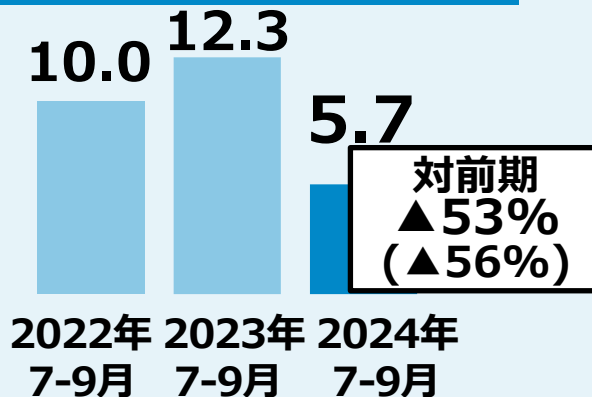
（単位：億円）

売上高 ※括弧内の%は為替除き

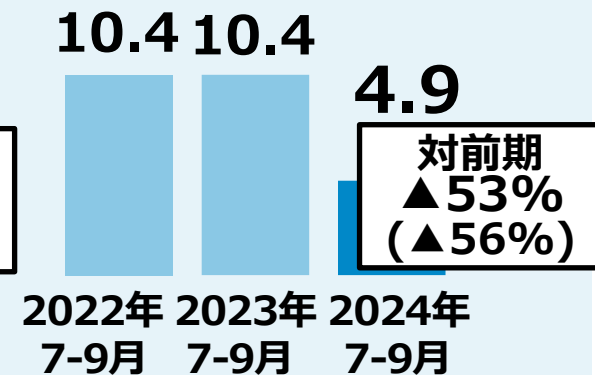
カイロ



熱さまシート



その他

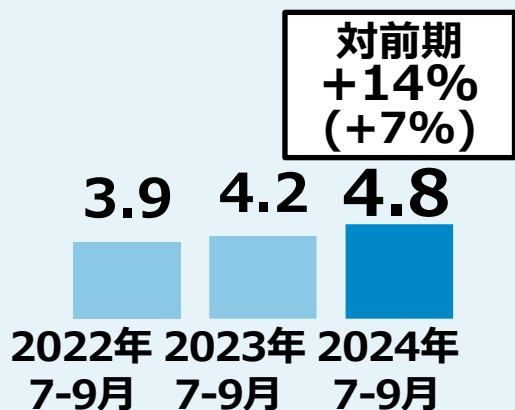


第3四半期（7-9月）実績

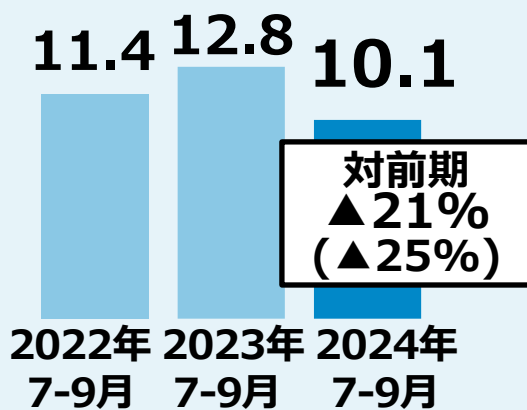
（単位：億円）

売上高 ※括弧内の%は為替除き

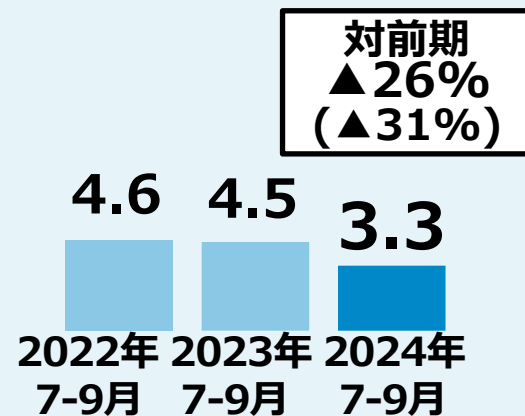
医薬品



熱さまシート



その他



(単位：億円)	2024年					
	1-3月	4-6月	7-9月		1-9月	
	金額	金額	金額	対前期	金額	対前期
売上高	364	366	413	▲9.2%	1,144	▲3.9%
売上総利益	209	198	219	▲14.3%	626	▲7.9%
率	57.4%	54.0%	53.1%	—	54.8%	—
営業利益	50	44	75	▲16.4%	169	▲12.4%
率	13.8%	12.1%	18.2%	—	14.8%	—
経常利益	54	49	74	▲22.5%	179	▲14.0%
率	15.0%	13.6%	18.1%	—	15.7%	—
当期純利益	9	4	39	▲48.8%	53	▲65.5%
率	2.7%	1.3%	9.5%	—	4.7%	—

(単位：億円)	2024年					
	1-3月	4-6月	7-9月		1-9月	
	金額	金額	金額	対前期	金額	対前期
広告宣伝費	32	15	11	▲73.5%	59	▲53.8%
率	9.0%	4.2%	2.7%	—	5.2%	—
販売促進費	9	8	7	▲11.5%	25	+2.0%
率	2.5%	2.4%	2.2%	—	2.2%	—

(単位：億円)	2023年 9月末	2023年 12月末	2024年 3月末	2024年 6月末	2024年 9月末
流動資産	1,713	1,583	1,384	1,323	1,267
現金及び預金	871	715	624	520	411
受取手形及び売掛金	445	530	376	351	396
有価証券	83	83	83	83	104
たな卸資産	284	220	269	308	294
固定資産	996	1,091	1,228	1,299	1,237
有形固定資産	451	476	603	657	654
無形固定資産	133	216	219	225	195
投資その他の資産	410	398	405	416	388
資産合計	2,709	2,674	2,612	2,622	2,504

(単位：億円)	2023年 9月末	2023年 12月末	2024年 3月末	2024年 6月末	2024年 9月末
流動負債	475	561	509	459	396
支払手形及び買掛金	102	87	94	87	79
短期借入金	0	0	0	0	0
未払金	184	250	177	171	142
固定負債	88	65	53	65	61
純資産合計	2,146	2,048	2,049	2,097	2,046
資本剰余金	5	5	5	5	5
利益剰余金	2,017	2,056	2,023	2,028	2,035
自己株式	▲136	▲247	▲247	▲247	▲247
負債純資産合計	2,709	2,674	2,612	2,622	2,504

(単位：円)	2023年 1-12月	2024年 1-3月	2024年 1-6月	2024年 1-9月	2024年 1-12月 予測
米ドル	140.6	148.6	152.2	151.2	150.0
中国元	19.8	20.6	21.0	20.9	21.0

(単位：億円)	2024年					
	1-3月	4-6月	7-9月		1-9月	
	金額	金額	金額	対前期	金額	対前期
売上高	261	286	287	▲12.5%	834	▲7.9%
売上総利益	147	155	151	▲19.9%	454	▲13.0%
率	56.6%	54.4%	52.6%	—	54.5%	—
営業利益	38	59	62	▲7.2%	159	▲0.1%
率	14.7%	20.8%	21.6%	—	19.2%	—

広告宣伝費	25	4	2	▲93.4%	32	▲70.1%
率	9.8%	1.4%	0.8%	—	3.8%	—
販売促進費	4	4	2	▲40.4%	11	▲14.7%
率	1.7%	1.5%	0.8%	—	1.3%	—

(単位：億円)	2024年					
	1-3月	4-6月	7-9月		1-9月	
	金額	金額	金額	対前期	金額	対前期
ヘルスケア	155	143	132	▲19.7%	431	▲9.2%
医薬品	82	72	71	▲15.1%	226	▲7.0%
食品	17	13	13	▲38.3%	44	▲30.4%
オーラルケア	39	41	34	▲17.4%	115	▲2.7%
スキンケア	15	16	13	▲24.9%	45	▲8.4%
日用品	85	128	138	+1.2%	352	+1.2%
衛生雑貨品	24	30	29	▲5.7%	83	+0.6%
芳香消臭剤	52	87	97	+4.7%	237	+2.5%
家庭用品	8	10	11	▲7.9%	31	▲6.9%
カイロ	4	2	6	▲16.5%	13	▲46.7%
通販	16	11	9	▲47.8%	36	▲34.9%

セグメント別業績（国際事業）①

12ページ

(単位：億円)	2024年					
	1-3月	4-6月	7-9月		1-9月	
	金額	金額	金額	対前期	金額	対前期
売上高	101	79	125	▲0.2%	306	+9.2%
売上総利益	59	41	67	+3.2%	168	+10.3%
率	58.8%	51.7%	53.8%	－	54.9%	－
営業利益	10	▲15	12	▲40.3%	7	▲74.3%
率	10.4%	－	10.0%	－	2.5%	－

広告宣伝費	7	11	8	+21.5%	27	+29.0%
率	7.1%	10.1%	8.8%	－	8.8%	－
販売促進費	4	4	5	+18.2%	14	+23.1%
率	4.5%	5.3%	4.4%	－	4.7%	－

セグメント別業績（国際事業）②

13ページ

(単位：億円)	2024年							
	1-3月	4-6月	7-9月			1-9月		
	金額	金額	金額	対前期	対前期 (為替除き)	金額	対前期	対前期 (為替除き)
米国	38.7	30.4	68.5	+20.0%	+12.8%	137.7	+32.7%	+21.2%
中国	28.0	20.6	26.6	▲28.5%	▲31.6%	75.3	▲18.5%	▲24.1%
中国大陸	21.0	13.3	20.1	▲30.8%	▲34.1%	54.4	▲21.8%	▲26.6%
(店頭)	13.3	6.1	11.5	▲23.2%	—	31.0	▲18.9%	—
(大陸EC)	6.2	4.8	8.9	▲23.3%	—	20.0	▲20.9%	—
(越境EC)	1.4	2.3	▲0.3	—	—	3.4	▲44.1%	—
(EC比率)	36.5%	54.0%	42.8%	—	—	43.1%	—	—
香港地域	7	7.2	6.5	▲20.5%	▲23.0%	20.8	▲8.2%	▲16.4%
東南アジア	27.0	17.3	18.3	▲15.0%	▲18.3%	62.8	+5.1%	▲1.3%
シンガポール	1.9	0.7	1.3	▲12.4%	▲11.4%	3.9	+1.1%	▲7.9%
マレーシア	8.6	4.7	3.9	▲30.6%	▲35.6%	17.2	▲5.3%	▲11.2%
タイ	7.0	4.9	4.4	+2.8%	▲0.7%	16.4	+21.4%	+14.8%
インドネシア	2.7	4.0	3.2	▲7.6%	▲7.4%	10.0	+14.3%	+9.6%
フィリピン	3.5	1.7	2.9	▲6.0%	▲14.2%	8.2	+20.5%	+9.8%
台湾地域	3.2	1.1	2.4	▲29.0%	▲30.2%	6.8	▲18.5%	▲23.0%
その他	8.0	11.0	11.5	+22.9%	+16.4%	30.6	+23.1%	+11.7%